



※かわさきSDGs大賞2025受賞者の取組

Kawasaki City SDGs Guidance

～ 川崎市庁内SDGs取組の進め方 ～

Ver4.0

2026年3月 川崎市



KAWASAKI
SDGs

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

『川崎市庁内SDGs取組の進め方』は、**職員**がSDGsの本質と使い方を理解し、庁内業務を**プロモーション**、**連携**、**改善**することを目的に作成しました。2023年8月から運用開始し、2026年3月に**Version4.0**を発行しました。

INDEX

序章・基本的事項	序章・基本的事項	(P 3)
第1章	SDGsの『本質と使い方』	(P11)
第2章	庁内事業をSDGs視点で『プロモーション』	(P23)
第3章	庁内事業をSDGs視点で『改善・連携』	(P31)
第4章	庁内SDGsの『先進事例や身近な事例』	(P39)
第5章	かわさきSDGsのゴールに向けて	(P49)
附属資料等	附属資料等	(P51)

序章・基本的事項

2025 Kawasaki City SDGs Action



提供写真を改変して利用しています。
CCBY4.0(<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>) by 川崎市

右の画像は、2025年に作成した本市のSDGs取組を海外からの来訪者に紹介する英語版リーフレット「Kawasaki City SDGs Action」

Creating a sustainable Kawasaki together

1 はじめに

- 「Kawasaki City SDGs Guidance ～ 川崎市庁内SDGs取組の進め方～（以下『進め方』という。）」は、**職員がSDGs※1の本質と使い方を理解し、庁内業務をプロモーション、連携、改善することを目的に2023年8月に策定した手引書**です。

※1 Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標

17のゴール、169のターゲット、231の指標（重複を除く）から構成され、平成27（2015）年9月の国連サミットで全会一致で採択された、世界共通の目標のこと。取組期間は2016～2030年の15年間。

- 本『進め方』はSDGsを庁内マネジメントとして活用した全国初の取組として、2023年に**第18回マニフェスト大賞の優秀賞及びプレゼンテーション特別賞を受賞**しました。
（応募3,088件 ⇒ 優秀賞40件、特別賞1件）
- SDGsを取り巻く状況の変化に柔軟に対応するため、本『進め方』は**年1回程度を目安に改訂**を行っており、今回の**Version4.0への改訂**では、**庁内取組事例の更新**や、本市職員のSDGsに関する**アンケート調査結果などの最新情報**を盛り込みました。



Ver1.0
2023.8策定



Ver2.0
2024.3改訂



Ver3.0
2025.3改訂



Ver4.0
2026.3改訂

2 概要・目的①

(1) 「SDGs未来都市」への選定

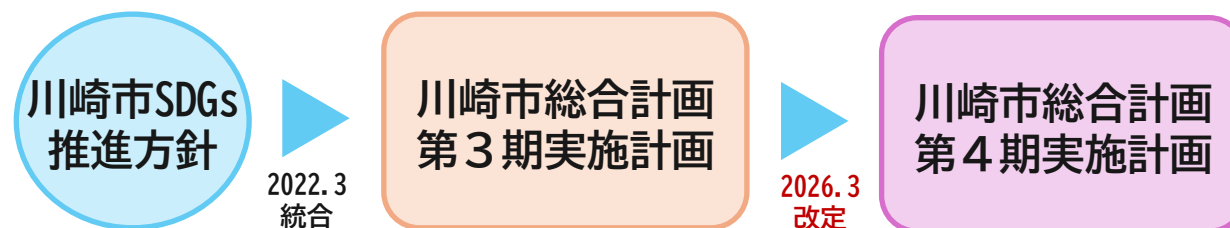
- 本市の持続可能な社会の実現に向けた取組が国から評価され、2019年7月、本市は「**SDGs未来都市**」に選定されました。SDGs未来都市としての取組を具体化したSDGs未来都市計画計画を策定※し、SDGsの達成に向けて取組を進めています。
※ 2026年3月には、2026～2029年を計画期間とする「川崎市第3期SDGs未来都市計画」を策定しました。

(2) 川崎市総合計画への位置づけ

- 本市は、2019年2月に「川崎市SDGs推進方針」を策定し、SDGsの理念や国の動向を踏まえながら、総合計画を推進することを基本に、全庁をあげてSDGs達成に寄与する取組を推進してきました。
- その後、職員一人ひとりがこれまで以上にSDGsを強く意識して各施策・事務事業に取り組みとともに、市が進める各施策とSDGsとの関係を市民に分かりやすく伝えるため、2022年3月に**SDGs推進方針を総合計画に統合**し、**総合計画に掲げる施策とSDGsの達成に向けた取組を一体的に推進**しています。

(3) SDGsの取組期間

- 2016年から2030年までの15年間



2 概要・目的②

(4) 本『進め方』の目的

- 本市は総合計画のすべての施策をSDGsのゴールと関連づけました。これにより、**市職員は日々の業務に取り組むに当たり、SDGsの本質を理解したうえで進める必要があります。**
- 本「進め方」は「**職員がSDGsの本質を理解・意識すること**」及び「**職員がSDGsをツールとして使いこなすこと**」を促進するための、**考え方や具体的な事例等**を示した「**手引書**」の位置づけとなります。

「総合計画（第4期実施計画）」は、かわさきSDGsの達成に直結する「**行政計画**」



「市内SDGs取組の進め方」は、職員がSDGsをツールとして使いこなすための「**手引書**」

2 概要・目的③

(5) 「かわさきSDGsパートナー」と「川崎市SDGsプラットフォーム」の設立

- 本市はSDGs未来都市として、2021年3月、川崎市SDGs登録・認証制度「**かわさきSDGsパートナー**」をスタートし、同時にパートナー同士をつなぎ新たな取組の創出を行う「**川崎市SDGsプラットフォーム**」を設立しました。
- 「川崎市SDGsプラットフォーム」では、パートナー向けの具体的な支援事業として、**かわさきSDGs大賞、分科会制度、フォーラム・セミナー、ポータルサイト**などを運用しています。

(詳細は後段の**附属資料**参照)



川崎市SDGsプラットフォーム



【事務局】
川崎市・川崎信用金庫

【コアメンバー】
川崎商工会議所、川崎青年会議所、川崎市産業振興財団、
かわさき市民活動センター、川崎市地球温暖化防止活動推進センター

参加団体の取組支援

勉強会・事例共有

情報共有・交流促進

活動情報の発信

団体間のマッチング



◆優良事例の共有
かわさきSDGs大賞

◆勉強会
フォーラム・セミナーの開催

◆パートナー同士の連携
分科会の設置

◆活動の見える化
ポータルサイトの開設

◆共創事例の展開
部会の設置

2 概要・目的④

(6) 「かわさきSDGsパートナー」制度の概要

➤ パートナー制度は2段階

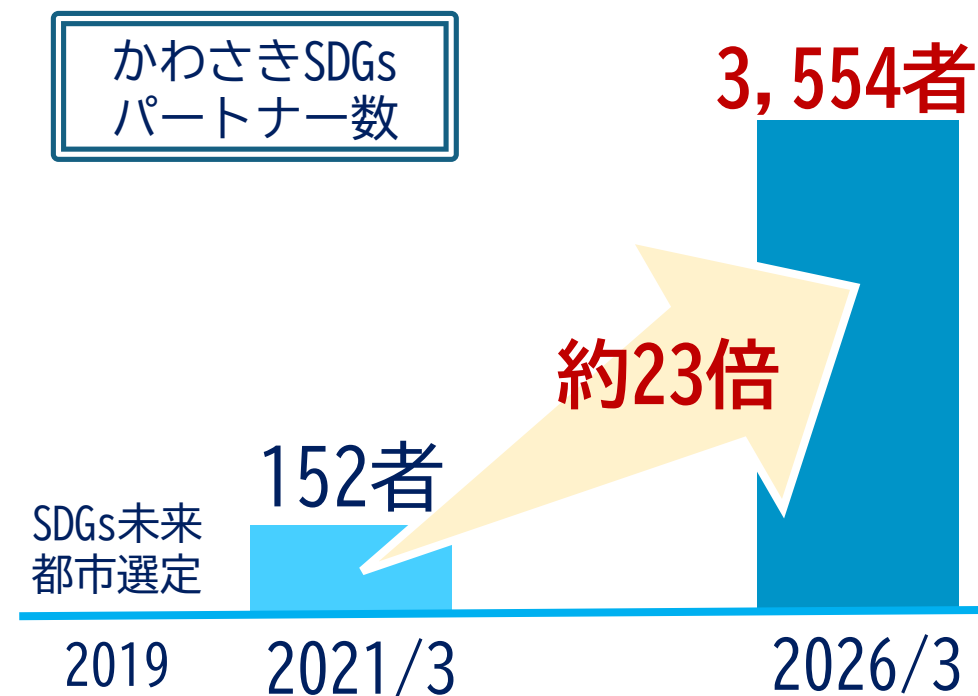
第1段階：**登録（パートナー）**：SDGsの達成に向けて取り組むことの意味表示（宣言）
 第2段階：**認証（ゴールドパートナー）**：SDGsの取組への自己評価・今後に向けた**目標設定**

➤ 登録・認証のインセンティブ

登録証・認証書の交付、専用ロゴマークの使用、川崎市SDGsプラットフォームへの参加（SDGs大賞や補助金制度、分科会制度、フォーラム等への参加、情報発信等）

➤ 認証のインセンティブ

- ・市融資制度「**SDGs・脱炭素取組支援融資**」による信用保証料補助
- ・市入札契約制度の「**主観評価項目制度**」における加点



2 概要・目的⑤

(7) 「川崎市職員脱炭素・SDGs自主行動宣言」

- 本市は、2023年度より、庁内で実施したアイデア提案から全職員投票結果を踏まえて決定した「川崎市職員脱炭素自主行動宣言」を行ってきました。
- **2024年4月から「脱炭素・SDGs自主行動宣言」としてバージョンアップし、脱炭素及びSDGsの双方の推進を全庁で進めています。**

■ 宣言文 要旨 (SDGs部分)

- ① 経済・環境・社会の**3側面**を意識した施策推進
- ② SDGsを踏まえた**情報発信・プロモーション**を意識した施策推進
- ③ SDGsを踏まえた庁内業務の**連携・改善**の促進
- ④ SDGsを踏まえた市民・事業者との**協働・連携**の促進
- ⑤ 人権配慮（性別, 国籍, 障害などへの配慮）や環境配慮など**基本的なSDGs配慮行動**の実践



(コラム) SDGsの次の議論

Column 1 SDGsの次の議論って？

- 2016～2030年为目标期間であるSDGsですが、その前は**MDGs**（ミレニアム開発目標）という目標が掲げられていました。
- MDGsでは、貧困対策など8個の目標が掲げられ、多くの成果を出しましたが、同時に多くの課題も残り、それらを解決するためにSDGsが掲げられました。
- そして近年、2024年9月22日に開催された**国連未来サミット (Summit of the Future)**では、グローバル・デジタル・コンパクトと将来世代に関する宣言を含む「**未来のための協定 (Pact for the Future)**」が採択されました。
- この協定において、国連総会の支援の下、**ハイレベル政治フォーラムを2027年9月に開催し、そこで、2030年以降の持続可能な開発をどう進めていくかを優先事項として検討することが盛り込まれました。**



1 SDGsの認知度

SDGsはあたりまえの時代に

100%

全国で持続可能な
開発のための教育
に取り組んでいる
学校の割合

81%

SDGs経営実践企業
のうち「効果あり」
と回答した割合※b

※b かわさきSDGsパートナー企業向けSDGs経営
実態調査アンケート（2023. 6. 川崎市）

92%

SDGsに関する
国民の認知度※a

※a SDGs に関する自発的國家レビュー
（VNR）報告書（2025. 6. 外務省）

75%

自身の数年前と比べて
SDGs意識が高まっている
と回答した割合※c

※c 川崎市職員SDGs意識調査アンケート
（2025. 10. 川崎市）n=3, 814

2 それぞれの視点から見たSDGs①

(1) 「行政目線」で見たSDGs～本市の立ち位置～

- SDGsの考え方や取組は、総合計画に掲げるめざす都市像「**成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき**」と同様の方向性であるため、2022年3月に川崎市SDGs推進方針を総合計画（第3期実施計画）に**統合**しました。
- 2026年3月に改定しました総合計画（第4期実施計画）においても、引き続き**総合計画に掲げる施策とSDGsの達成に向けた取組を一体的に推進**することとしています。

(参考) 「SDGsスタディパネル」

- ・SDGsスタディパネルは、17のSDGsゴールごとに、関連するキーワードや169のターゲット間の関係性がわかりやすくまとめられた学習ツールです。

(出典：法政大学川久保研究室)



(参考) SDGsの超基礎 ～最低限把握したい事項～

- ・SDGs：Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標
- ・平成27（2015）の国連サミットで全会一致で採択された**世界共通目標**
- ・17のゴール、169のターゲット、231の指標（重複を除く）から構成
- ・**経済・社会・環境の3側面**の取組を総合的に推進
- ・取組期間は**2016～2030年の15年間**
- ・2023年から後半フェーズ



2 それぞれの視点から見たSDGs②

(2) 「市民目線」で見たSDGs

- 市民目線では、SDGsを全体として意識するよりもむしろ、SDGsを意識せずに、**ジェンダー・平等や貧困など個人で抱えている問題に直結**しています。
- 他方、SDGsという概念自体は一般的に普及し**約92%の国民が認知**※3していますが、気候変動や水環境など地球規模の課題については、**個人で解決できない話**、あるいは**自分と直接関係ない話**として捉えられることも多く※4、SDGsの市民理解の促進をさらに深めていく必要があります。

(3) 「学校教育目線」でみたSDGs

- 令和3（2021）年5月、文部科学省は、ESDに関する直近の国際的動向や学習指導要領の改訂も踏まえ、**SDGsを実現するための行動、実践を促進するための手引き**として「**持続可能な開発のための教育（ESD）推進の手引き**」を改訂しました。
- 現在、**全ての市立小学校で、SDGsの達成につながる様々な学習**に取り組んでいます。



平間小学校：SDGs教育の状況

保護者よりも
子どもの方が
SDGsに詳しい
なんてケースも

※3 「持続可能な開発目標（SDGs）に関する自発的国家レビュー（VNR）2025」（2025.6.外務省）

※4 World Now「市民が参加するSDGsが社会課題に新たな視点を与える」（GLOBE+ 2018.1）

2 それぞれの視点から見たSDGs③

(4) 「経営・投資目線」でみたSDGs (≒ESG※)

※ 本『進め方』では、ESGとSDGsとの関連性・親和性が深いことを「≒」と表現

➤ ESG (≒SDGs) と国際市場

- ・ ESG (Environment (環境), Social (社会), Governance (企業統治)) は、SDGsよりも前に存在する考え方で、主に企業や投資家の間で使われる用語です。
- ・ ESGとSDGsのとの関連性は深く、多くの企業が持続可能な経営手法としてESGに取り組み※5、今や**国際市場ではESG (≒SDGs) は投資・ビジネスの大前提**になっていると考えられます。

Column 2 なぜESG (≒SDGs) が投資・ビジネスの大前提に？

国際市場は、気候変動（脱炭素）などを背景に、

- ・ 2006年：国際ルールとして、**投資判断**にESGを組み込むことを第1原則化
- ・ 2013年：国際ルールとして、**保険事業**にESGを組み込むことを第1原則化
- ・ 2019年：国際ルールとして、**銀行分野**でパリ協定（脱炭素）に資することを第1原則化

投資・保険・銀行の3分野でESGが**第1原則**となり、市場に決定的に影響※5。
2019年以降、世界的企業や国内企業で**ESG (SDGsとりわけ脱炭素) の取組が急激に加速化**。



※5 「ESG投資を巡る課題」(財務省資料：早稲田大学経営管理研究科根本直子教授 2021.6)

2 それぞれの視点から見たSDGs④

(5) 「中小企業経営目線」で見たSDGs

- 中小企業経営にとってのリスクとして、顧客から「注文が減る」、顧客が「購入しなくなる」などが挙げられます。
- テレビ・新聞・ネットニュース等でESG（≒SDGs）に関する企業関連記事を目にしない日はなく、前述のとおり、国際市場ではESG（≒SDGs）が投資・ビジネスの大前提となっています。
- **大手企業等の取引先によるサプライチェーンの強化に向けた要請**は、脱炭素や循環経済（サーキュラーエコノミー）、人権問題、ジェンダーなど多岐にわたっているため、**中小企業が事業を継続していくためにもSDGsへの対応が迫られています**※6。



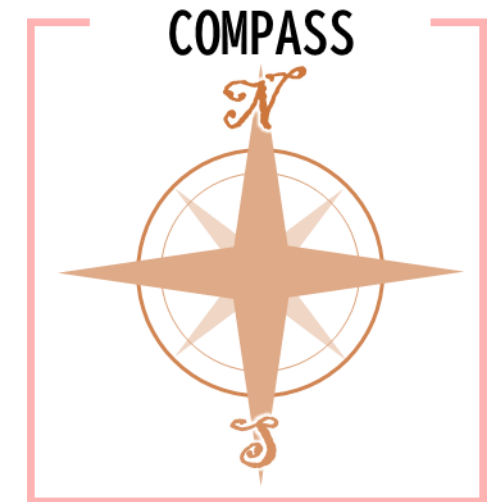
※6 「SDGs経営ガイド」(経済産業省 2019.5)

3 「SDGs」の本質と使い方①「コンパス」

(1) SDGsは「コンパス」である

- SDGsは「**誰一人取り残さない**」をキーワードに、持続可能な社会を目指すために**必要な要素がすべて詰まっています**。
- このため、私たちが事業を進めるうえで考慮すべきことが、「**17ゴール**」と「**169ターゲット**」という形で**明確に示されています**。
- SDGsの17ゴールと169ターゲットを踏まえながら、**既存事業の見直しや新規事業を検討**することで、当該事業のSDGs位置づけや、他のゴール・ターゲットへのつながりなどが確認でき、**事業の改善・連携が進めやすくなります**※7。

SDGsは職員が考慮すべきことを明示してくれる
コンパスとして機能し、**事業の改善・連携**などに役立ちます



出展：SDGs Compass (SDGsの企業行動指針 - GRI・UNGC・WBCSD)

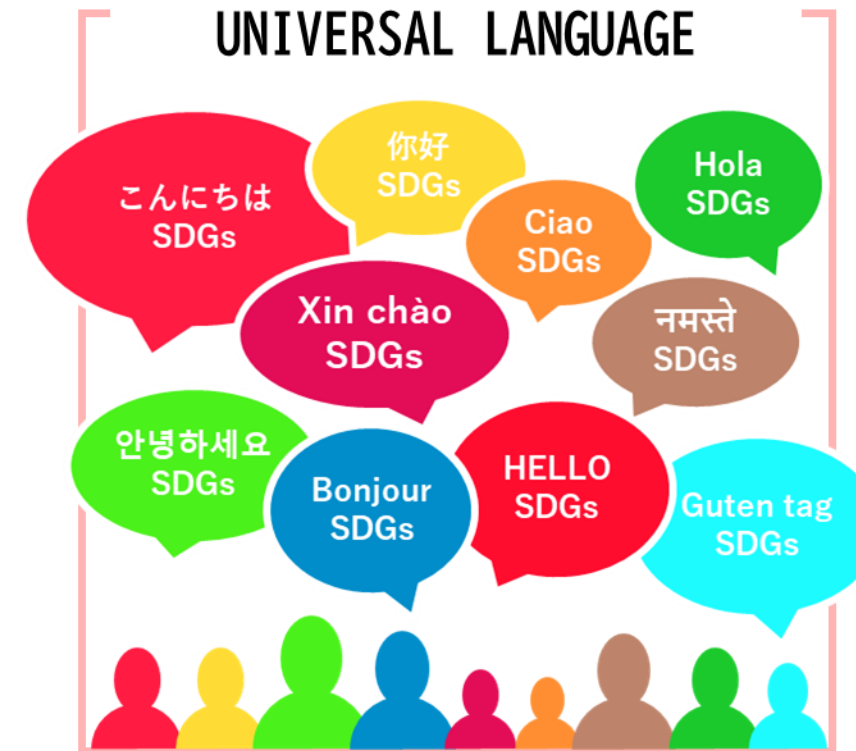
※7 SDGs Compass (SDGsの企業行動指針 - GRI・UNGC・WBCSD)

3 「SDGs」の本質と使い方②「共通言語」

(2) SDGsは「共通言語」である

- SDGsは先進国・途上国を問わず**世界中の国々**で取り組まれており、政府、地方自治体、企業、NPO団体、市民など**あらゆる主体が取り組んでいます**。
- 例えば、本市が脱炭素化（ゴール13関連）の取組を発信した場合、それがSDGs解決の取組であることが、市民や他地域、他国に世界共通の言語として**同様の認識**で伝わります。
- また、**SDGsは今や投資、保険、銀行分野における重要な判断基準**であり、**世界中が注目**しているため、**SDGsを使って業務を効果的にPR**することができます。

SDGsという**共通言語**※8で自分たちの業務を発信することで、**効果的にPR**することができます



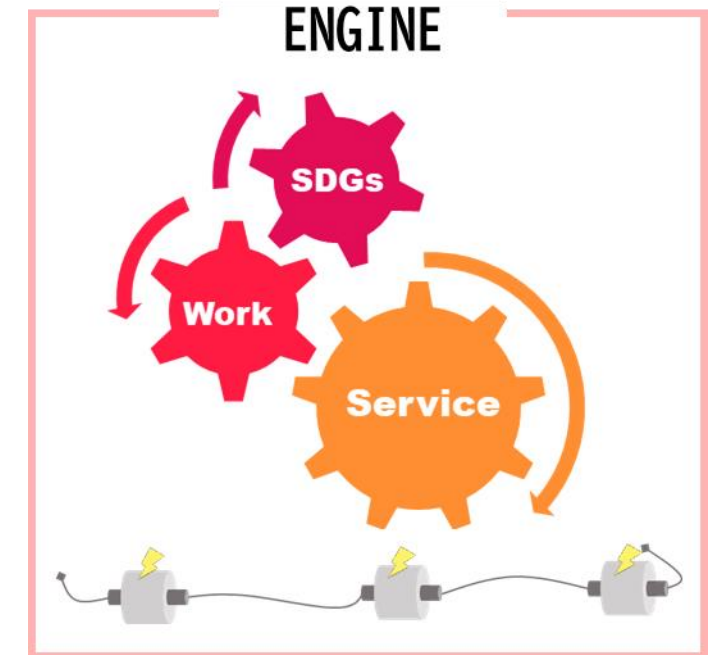
※8 「特集 SDGs（持続可能な開発目標）と科学技術イノベーションの推進」（文部科学省 2019.9）

3 「SDGs」の本質と使い方③「エンジン」

(3) SDGsは「エンジン」である

- SDGsは国内外において高い関心と理解が進んでいるため、（経費・人的リソース検討は別途必要ですが、）事業実施にあたり、**SDGsを意識した取組であれば正当性が説明しやすく、庁内外の合意形成も図りやすくなります。**
- また、行政施策には「脱炭素」「地域包括ケア」「パラムーブメント」など**全庁に渡る分野**が複数ありますが、**SDGsはそのすべての要素を包括的に含むため、全庁業務をSDGsで横串を指すことで、事業の統合・連携が図られやすくなります。**
- このように、**SDGsは地方創生の原動力（エンジン）**として、事業の一層の充実・深化につなげることができます※9。

SDGsは**事業の合意形成**や、**事業の統合・連携**を進めやすくする**エンジン**として機能します



4 「SDGs」のカスタマイズ

➤ SDGsは「カスタマイズ」できる

➤ SDGsは単なる「ロゴマーク」「アイコン」ではありません






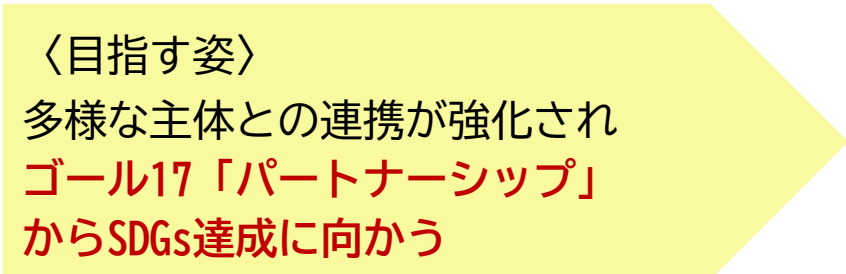
- ・SDGsを活用することで、業務量を増やさずに仕事の質をレベルアップさせることができます。
- ・そして、世界の共通言語であるSDGsを、地域レベルの課題解決に適用するためには「ローカライズ」と呼ばれる翻訳作業が必要であるとされています※10。
(本市は、SDGs推進方針を総合計画に統合し「かわさきSDGs」として取り組んでいます)

SDGsはローカライズが必要です。
次章（第2章）以降では、
SDGsをカスタマイズし、庁内事務事業を
「プロモーション」「改善・連携」
する方法や事例等を説明します



5 本『進め方』の狙い①

➤ 本『進め方』の狙い

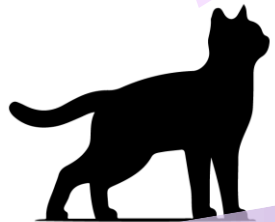
段階	状態	川崎市の状況
<p>少し前 (2020年頃)</p> <p>第1段階 </p>	<p>SDGsの存在を <u>認知・理解</u>する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの職員はSDGsの存在を認知し、SDGsの定義や17ゴールのロゴマーク等をなんとなく把握。 <p> ログマークくらいなら知ってるよ</p>
<p>多くの職員の <u>現状</u></p> <p>第2段階 </p>	<p>SDGsを業務に <u>位置づける</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画のすべての施策にSDGsゴールを紐づけ。 全職員がSDGs取組を実施。 <p> 自分の業務はSDGs取組なんだね</p>
<p>本『進め方』の <u>狙い</u></p> <p>第3段階 </p>	<p>SDGsの本質を理 解しツールとし て活用する</p>	<p>〈目指す姿〉 多様な主体との連携が強化され ゴール17「パートナーシップ」 からSDGs達成に向かう</p> <p></p> <p>第2章へ</p>

5 本『進め方』の狙い②

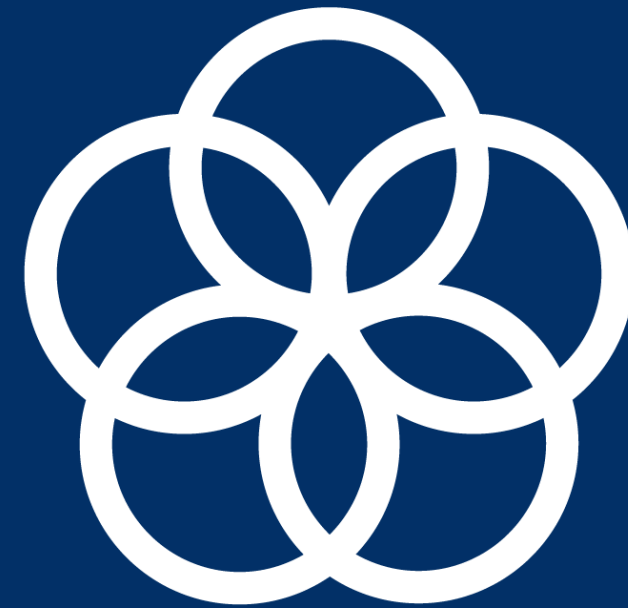
庁内だけでなく、
多様な主体との連携が強化され
ゴール17「パートナーシップ」
からSDGs達成に向かう

庁内取組の
改善・連携や
プ・ロモーションが進む

SDGsの本質
を理解する
職員が増える



17 パートナーシップで 目標を達成しよう



第2章 庁内事業をSDGs視点で『プロモーション』



右の画像は、2025年～2026年掲載の「SDGsトレインポスター※」
 ※ 本市は2020年9月～2026年3月の間、東急株式会社が運行する「SDGsトレイン」にSDGs取組を紹介するポスターを掲出し普及啓発を推進

1 SDGsを「シティブロモーション」に活用①

(1) 「SDGs×シティブロモーション」

- 第1章のとおり、SDGsは共通言語であり、またサステナビリティを重視する考えが**世界中で認識・注目**されています※11。
- 事業推進にあたり**SDGsを意識**することで、当該事業が持続可能な社会にむけた取組であることをPRでき、**国内外のSDGs関心層の目に映り、市内外の様々な主体の注目・関心**を集めやすくなります。

(2) 「チラシにロゴマークを貼るだけ」ではない

- SDGsを使ったプロモーションというと、多くの職員がSDGsの17ゴールのアイコンを広報チラシ等に貼り付けることを思い浮かべるかもしれませんが。
- SDGsアイコンによる明示は有効な手段の1つではありますが、それだけでなく、例えば「**文脈中にSDGsを明示する**」「**事業計画・内容にSDGsの考え方を明示する**」など様々な工夫を行うことで、SDGsをより効果的に活用することができます。



市政だよりでは、特集記事に関連するSDGsゴールを明示しています。

※11 「2022経済展望とサステナブルな資本主義の道筋」(経団連会長スピーチ 2021.12.)

1 SDGsを「シティブロモーション」に活用②

(3) 「シティブロモーション」としての活用イメージ

- 行政施策や事業者連携の事業等を情報発信するにあたりSDGsを意識して発信することで、当該取組とSDGsとの関連をより深く印象づけることができ、**市内外のSDGs関心層への注目・関心を集めやすくなります。**

SDGs経営企業事例集一部 (2025. 2)



夏休み親子向け消費者講座チラシ一部(2025. 8)



2 SDGsを「インナープロモーション」に活用①

(1) 「インナープロモーション」とは

- 「インナープロモーション」とは、組織のブランド価値や理念について職員への理解醸成を図ることで、**職員の意思統一**や**意欲向上**を図るための**庁内向けのプロモーション活動**のことです。組織の方針と職員の思いが同じ方向に向くことで、**仕事の質と効率の向上につながります**。

(2) 「SDGs×インナープロモーション」

- 本『進め方』は**インナープロモーションの一環**であり、SDGsを通じた**職員の意思統一**や**仕事の魅力**を感じていただき、**働きがい向上**につなげていくことを目指しています。
- 2023年11月には、環境局と総務企画局の**庁内会議を合同開催**し、**脱炭素とSDGsの双方の意識付けを高める取組**を進めるなど、会議連携によるインナープロモーションの取組も行いました。

2023年11月開催 令和5年度第2回川崎市環境行政・温暖化対策推進総合調整会議 令和5年度第3回川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部 合同会議
第2部 専門家（高木超慶應義塾大学特任助教）によるビデオ講演「SDGsの捉え方・認識をより深めよう！」の様子



2 SDGsを「インナープロモーション」に活用②

(3) 「インナープロモーション」事例①（若手職員SDGs研修）

- 研修テーマ：『SDGsで仕事を横断！』（2025.7.25）
- 申込者：151人（会場26人、オンライン125人）
- 他都市視察：22自治体（会場2人、オンライン24人）

（特徴）

- 総務企画局、経済労働局、環境局、中原区役所の**4局区連携**によるSDGs事例紹介
- 複数自治体（**22自治体**）が**本研修を視察**
- **川崎市SDGs推進アドバイザー**（北九州市立大学法学部 高木准教授）による特別講演・ワークショップを実施

（実施結果）

- 参加者の**91%**が「**自身の思考の変化に繋がった**（やや繋がった）」と回答。

SDGsを日々の仕事に活用する最新事例等を学び、ワークショップで活用例を話し合いました

SDGsで自分のキャリアを考えよう！

若手職員 SDGs研修

昨年4月より、本市は「川崎市職員脱炭素・SDGs自主行動宣言」を開始し、庁内職員のSDGs意識醸成に向けた研修や事業連携等を進めています。この度「若手職員SDGs研修」を開催しますので、御案内します。

| 対象者 |

- ① 採用3年目職員研修対象者（総務企画局人材育成課 連携事業）
- ② 35歳以下の総務企画局職員（総務企画局庶務課 連携事業）
- ③ その他35歳以下の職員（全庁）

募集開始



2 SDGsを「インナープロモーション」に活用③

(4) 「インナープロモーション」事例② (プチ研修)

- 実施内容：『職員SDGsアンケート調査 及び プチ研修『SDGsクエスト』』
LoGoフォームを活用したアンケートの最後に、シミュレーションゲーム形式のプチ研修『SDGsクエスト』を実施
- 実施対象：全職員
- 実施期間：2025年10月1日～10月31日
- 参加状況：3,093人 (アンケート回答数は3,814人)
- 他都市参加状況：33人 (SDGs未来都市216都市へ案内)

(実施結果)

- 参加者の94%が「**とても良い (まあまあ良い)**」と回答。

プチ研修受講者の声

- ・短時間でどこでも受けられるという点から受けやすい。
- ・**SDGsの振り返りや新たに考えさせられる良い機会**になった。
- ・具体的な事例で考えやすかった。
- ・**日々の業務も選択によって結果が変わってくる**と改めて考えさせられた。

プチ研修は実施期間後も一般公開中



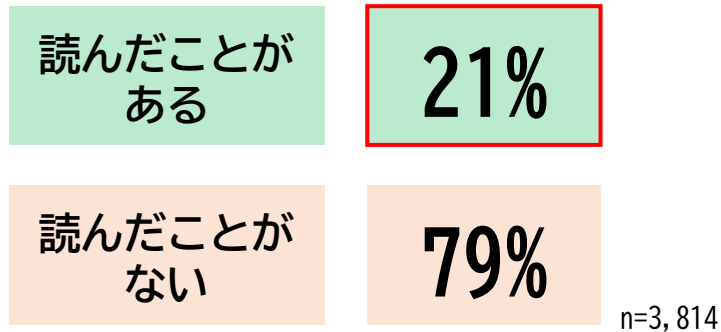
<https://logoform.jp/form/FUQz/726454>

3 川崎市職員SDGs意識調査結果

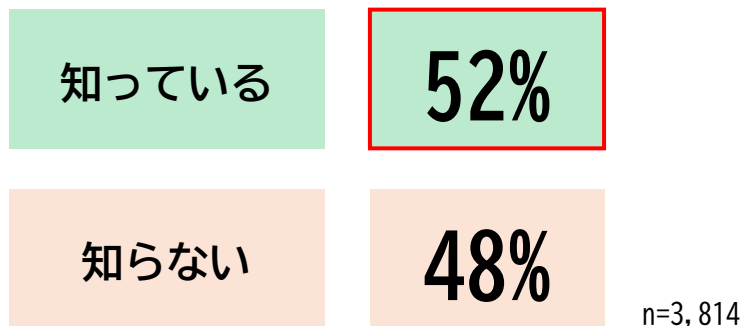
➤ 市職員SDGs意識 (2025.10アンケート調査結果)

- 実施対象 全職員（2024年対象外の会計年度任用職員等含む）
- 実施期間 2025年10月1日～10月31日
- 回答者数 3,814人（前年から900人増）

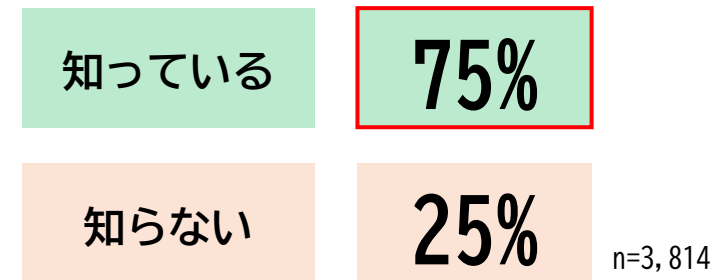
Q. 本『進め方』を読んだことがあるか？



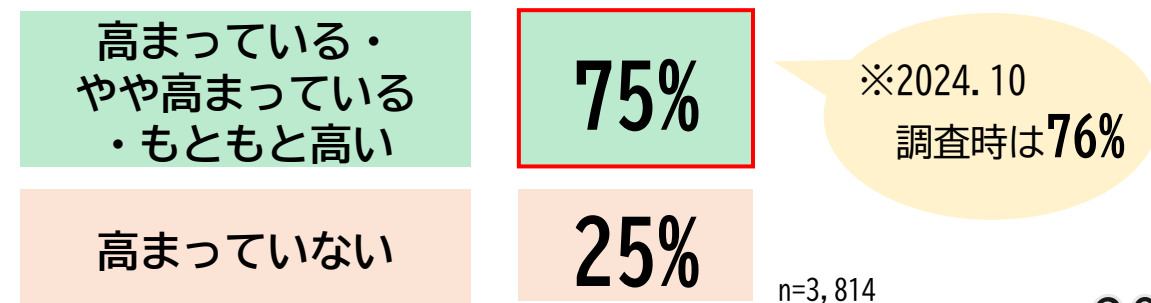
Q. 総合計画において、すべての事務事業をSDGsと関連付けていることを知っているか？



Q. R6.4に開始した『川崎市職員脱炭素・SDGs自主行動宣言』を知っているか？



Q. 自身の数年前と比べて、自身のSDGs意識が高まっているか？



(参考)全国市区・SDGs先進度調査(ランキング)

Column 4 全国市区・SDGs先進度調査(ランキング)で川崎市が全815市区中6位にランクイン

- 日本経済新聞社が編集・発行する地方創生・地域経営の専門誌「日経グローバル」は、全国815市区を対象に「全国市区・SDGs先進度調査」を実施(隔年ペース)。
- 2024年秋の第4回調査では、**川崎市は全815市区中で第6位にランクイン。**
SDGs取組を先進的に進めている都市として高く評価されました。

総合順位(前回)	自治体名	得点
1位(前回2位)	豊田市	80.45点
2位(前回4位)	京都市	79.17点
3位(前回5位)	北九州市	77.80点
4位(前回1位)	さいたま市	77.57点
5位(前回5位)	相模原市	77.30点
6位(前回23位)	川崎市	77.08点
7位(前回13位)	宇都宮市	76.52点
8位(前回7位)	大阪市	75.65点
9位(前回3位)	福岡市	74.80点
10位(前回14位)	札幌市	74.47点



第3章 庁内事業をSDGs視点で『改善・連携』



Next New Challenge



Next New Challenge



Next New Challenge



Next New Challenge



Next New Challenge



Next New Challenge



Next New Challenge



Next New Challenge



Next New Challenge

右の画像は、2025年「川崎 秋の5大イベント」
共通テーマである「101」の「1」を、多様な人々
がそれぞれの価値観で表現できるキャンペーン
生成画像例
参加受付期間：2025年9月8日～11月13日

1 SDGsを「事業改善・連携」に活用①

(1) 職員にありがちな考え方



地球温暖化対策に取り組む



ジェンダー平等に配慮する



環境に配慮した製品を使う

私の仕事はSDGsの取組だから
日々仕事をこなすだけで
十分なのでは？



それだけでは
ありません！

世の中を**良い方向に変える**
具体的な行動が**SDGs**です！

Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development
This Agenda is a plan of action for people, planet and prosperity. It also seeks to strengthen universal peace in larger freedom.
We recognise that eradicating poverty in all its forms and dimensions, including extreme poverty, is the greatest global challenge and an indispensable requirement for sustainable development. All countries and all stakeholders, acting in collaborative partnership, will implement this plan.
We are resolved to free the human race from the tyranny of poverty and want and to heal and secure our planet.
We are determined to take the bold and transformative steps which are urgently needed to shift the world onto a sustainable and resilient path.
As we embark on this collective journey, we pledge that no one will be left behind.

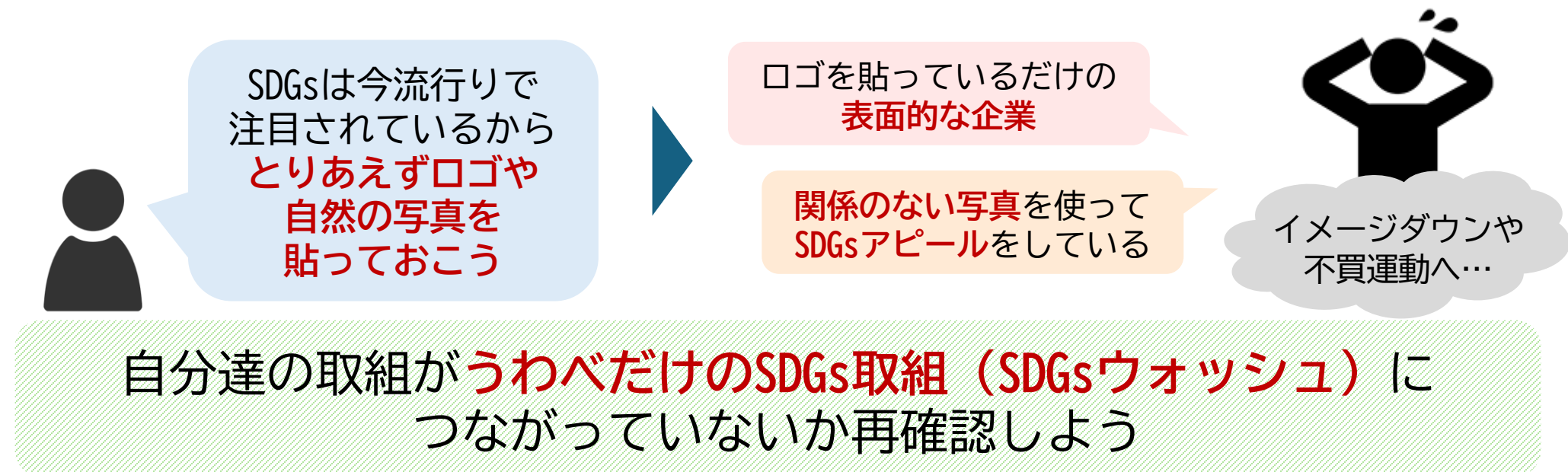
1 SDGsを「事業改善・連携」に活用②

(2) 「SDGsウォッシュ」に要注意

その取組、「**SDGsウォッシュ**※12」になっていませんか？

SDGsウォッシュとは・・・

- ・SDGsに配慮しているように見せかける（**うわべだけ**）
- ・実態以上にSDGsに配慮しているようにみせかける（**過剰アピール**）
- ・良い情報のみを切り出す（**印象操作**） など



2 SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例①

(1) 効率的な連携事例（総務企画局×経済労働局×まちづくり局×企業・各実行委員会）



- 総務企画局では、100周年を契機に生まれた「Colors,Future!Summit」「みんなの川崎祭」や川崎駅周辺のまちづくりと連携し、官民連携でまちのにぎわいの創出や川崎の更なるブランディングをめざす取組を進めています。
- 2025年11月は、「101 - Next New Challenge - 次の100年へ向けた、新たな挑戦のはじまり」という共通テーマを掲げ、①「Colors,Future!Summit 2025」、②「みんなの川崎祭」、③「かわさき市民祭り」、④「川崎夜市」、⑤初開催の音楽ライブイベント「LIVE STOCK - KAWASAKI MUSIC JOURNEY - 」の5つのイベントを横断的に繋ぎ、「川崎 秋の5大イベント」として開催することにより効果的なブランディングに取り組みました。
- それぞれのイベントが取組の強みを生かしながら、一体となって成長を重ね、中長期的には川崎を代表する祭典へ発展することをめざします。



担当者のポイント

この日は川崎駅周辺のどこへ行っても楽しめる日！5大イベントの特設サイトを用意し、各イベント情報を紹介するほか、デジタルマップ&スタンプラリーを掲載し、「あちこち行ってみたくなる」よう工夫しました！

2 SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例②

(2) 効果的な連携事例（かわさきTEKTEK×庁内・地域の企業等）



- 健康福祉局が実施する健康ポイント事業ではスマートフォン用ウォーキングアプリ「かわさきTEKTEK」を活用し、歩いて貯めたポイントを子ども達の学校生活を充実させるために利用することで、**健康と優しさが循環する「健康循環社会」の実現**をめざします。さらに各局や地域の企業との連携イベントを多数実施し、**相乗効果を生み出しています**。
- 連携実績(次ページ参照)



担当者のポイント

連携イベントにより、アプリ参加者は新たな川崎の魅力を再発見でき、イベントがアプリ新規参加のきっかけにもなっています。実際に地域を歩いたりグループ機能を使ったりすることで、「地域とのつながりづくり」の一助にもなっています。

2 SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例②

➤ 連携実績（2025年度）

No.	連携先	連携イベント
1-01	(庁内) 総務企画局	自主グループ活動体験講座 【まち歩き体験コース】【日帰り旅倶楽部体験コース】
1-02	(庁内) 市民文化局	アートイベント『鉄道高架下のトンネル壁面に新たに完成したミュラールアートを楽しもう!』(Perfect Days KAWASAKI関連イベント)
1-03	(庁内) 市民文化局	かわさきミュラールアートさんぽ
1-04	(庁内) 市民文化局	アーバンスポーツを無料で体験できるイベント『Perfect Days KAWASAKI』(パーフェクトデイズかわさき)
1-05	(庁内) 経済労働局・市立川崎高等学校	川崎めいさんぽ 2026
1-06	(庁内) 環境局・大塚製薬株式会社	歩いて涼んでポイントGET! 『ちょこ涼TEKTEK』
1-07	(庁内) 健康福祉局	Anker フロントタウン生田 キッズスポーツフェスタ2025 supported by SOMPOひまわり生命
1-08	(庁内) 健康福祉局	川崎市スポーツフェスタ2025
1-09	(庁内) 健康福祉局	フレイル予防とお薬のセミナー
1-10	(庁内) 健康福祉局	セミナー「心臓病の基礎知識-疾患の種類、症状と治療、リハビリの重要性-」
1-11	(庁内) 健康福祉局	「かわさきTEKTEK感謝祭」in 大人の遊び場 学び場
1-12	(庁内) 健康福祉局	MIMOSA FESTA 2026
1-13	(庁内) まちづくり局	武蔵小杉の魅力を歩いて発見!
1-14	(庁内) まちづくり局	川崎市の新しい交通拠点『モビリティステーション』へ行ってみよう!【川崎区・藤崎】【高津区・橘公園】【川崎マリエン】
1-15	(庁内) まちづくり局	川羽歩撮 川崎×大田×羽田 フォト&ウォークラリー2026.3【川崎区・藤崎】
1-16	(庁内) 建設緑政局・川崎区役所	TEKTEK歩いて浮島町公園の魅力を発見! ~浮島町公園を歩こう、守ろう、楽しもう~
1-17	(庁内) 建設緑政局	協働花壇と生田緑地を巡る道
1-18	(庁内) 臨海部国際戦略本部	殿町国際戦略拠点キングスカイフロントから羽田空港へ~多摩川スカイブリッジでつながるイノベーション拠点の今を訪ねて~
1-19	(庁内) 川崎区役所	旧東海道川崎宿から川崎大師周辺コース
1-20	(庁内) 幸区役所	①ひなまつり和みさんぽ@幸区日吉合同庁舎、②日吉市×さくらフェスタ日吉@幸区日吉合同庁舎
1-21	(庁内) 中原区役所	プロレスラーが教える筋トレ教室
1-22	(庁内) 高津区役所	ボードレスリズムフェス in TAKATSU
2-1	(団体) 柿生中央商店会	禅寺丸柿まつり
2-2	(団体) かわさきジャズ実行委員会	熱帯JAZZ楽団コンサートinかわさきジャズ2025
2-3	(団体) 中原区商店街連合会	中原区商店街連合会ウォーキングラリー
3-1	(企業) 川崎アゼリア株式会社	アゼリアTEKTEK
3-2	(企業) キンコーズ・ジャパン株式会社	川崎駅前店10周年記念イベント~地域への還元と感謝をこめて~
3-3	(企業) 株式会社東急スポーツオアシス	ヨネッティー王禅寺「清掃ウォーク」
3-4	(企業) ハクジュプラザ川崎モアーズ店	理学療法士が同行する健康ウォーキングイベント
3-5	(企業) 明治安田生命保険相互会社	2025かわさきCityバーチャル健康ウォーキング
3-6	(企業) ユースキン製薬株式会社	ハンドエキスポ2025

2 SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例②

例えば…

- 環境局や協賛企業と連携したポイントゲットイベント「ちょこ涼TEKTEK」では、外出時に気軽に立ち寄り涼める施設「かわさきちょこ涼(すず)」を参加者に周知するとともに、ウォーキングによって暑さ慣れを促し、健康増進を図りつつ、熱中症予防につなげています。
- まちづくり局と中原区役所と連携したスタンプラリー「景観ウォーク 武蔵小杉の魅力歩いて発見！」では、武蔵小杉駅周辺の愛着や関心を深めてもらうため、市民一人ひとりの景観に対する捉え方を把握することを目的に実施しました。参加意欲向上のためのアンケート調査の景品を区の名産「桃の彩」とし、また、参加賞の景観カードを区の窓口で配布することで、400人以上の参加につながりました。
- 建設緑政局・川崎区役所と連携した「TEKTEK歩いて浮島町公園の魅力を発見！！」では、森と海に囲まれた浮島町公園で、公園をもっと身近に感じ、気軽に関わるきっかけづくりとなる「イドバタパークデー」や、自然素材を使った体験型のイベントをかけ合わせ、公園の新しい魅力をより多くの方々に知ってもらい、「みんなが気持ちよくいきいき過ごせる公園」の実現に向けて取り組んでいます。



2 SDGsを意識した「事業改善・連携」の事例③



(3) SDGs情報連携事例（総務企画局×全庁）

- 総務企画局では、3,500者を超えるかわさきSDGsパートナーに対し、定期的に情報発信を行っており、**2023年度から**庁内のSDGs関連事業と連携し、**各局区が進めるSDGs関連事業に関する情報発信**を進めています。（2025.4.1～2026.3.25 配信件数：73件（13局区））

2025年度の実績・効果（例）

事例	配信時期	配信した事業	事業所管	本配信効果	事業全体実績
1	2025年5月	「新百合ヶ丘駅周辺クリーンアップ大作戦」の開催について	麻生区役所	2者、5人	事業者31者、参加者225人
2	2025年6月	ワークショップ「れきしのナゾに挑戦！」参加者募集中！	総務企画局	4人	23人
3	2025年6月	第18回川崎国際環境技術展の出展者を募集します！	経済労働局	2者	120者
4	2025年7月	中小企業ESG経営実態把握調査へのご協力をお願い	経済労働局	19者	146者
5	2025年8月	「第23回たまたま子育てまつり」への協賛をお願い	多摩区役所	3件	11件
6	2025年10月	「都市緑化月間」及び「川崎市緑化基金」のお知らせ	建設緑政局	寄附1件	年間20件（見込）
7	2025年10月	かわさきSDGsパートナー制度に関するアンケートのお願い	総務企画局	172者	172者
8	2025年11月	「かわさきTEKTEK」企業登録でSDGsに取り組みませんか？	健康福祉局	4者	158者
9	2025年11月	なかはらSDGsまつり2026の出展者募集	中原区役所	6者	11者
10	2026年1月	「かわさきTEKTEK」第3回企業対抗ウォーキング大会のお知らせ	健康福祉局	1人	175人
11	2026年3月	中原ぼうさい講演会の参加者募集	中原区役所	3人	55人

第4章 庁内SDGsの『先進事例や身近な事例』



1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(1) 技術連携事例①（経済労働局×地域の企業×自治体間連携）



- 経済労働局では、2024年から特定の市場や分野に特化したニッチでキャッチーなテーマの展示会「川崎ニッチ技術ミニ展示会」を**予算ゼロ、関係団体との連携による手作りで開催し、市内中小企業が誇る製品、技術のPRや関係企業のネットワーク構築を図っています。**
- テーマ範囲をあえて絞ることで、市内中小企業のニッチ技術の掘り起こし、PRにつながっています。また、**テーマ範囲に対し興味関心を持つ企業等の来場が期待できる**ことから、具体的な協業等の話題につながりやすくなります。
- 市内中小企業の製品・技術をPRするとともに、「産業のまちネットワーク推進協議会」にて日頃から情報交換を行っている大田区、品川区の企業や、「産業連携に関する基本協定」で連携している富士宮市の企業に参加いただき、他都市企業も含めた**企業同士のつながり形成し、中小企業のサプライチェーン強化**を図ります。



担当者のポイント

企業活動に市域は関係なし！
市内企業の優れた製品・技術を自治体間連携を効果的に使って広めることは、地域経済の活性化につながっています。

1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(2) 技術連携事例②（環境局×臨海部国際戦略本部×企業）



- 環境局では、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指すために、**企業等と連携して、ごみ焼却による排ガスからCO₂を分離回収し、利用・貯留する「CCUS」※**の導入に向けて取組を進めています。

※ CCUS:Carbon dioxide Capture, Utilization and Storageの略語。
- CCUSは、工場などからの排気ガスに含まれるCO₂を分離回収し、資源として作物生産や化学製品の製造に有効利用、または地中に貯留する技術で、**再エネ等を活用した温室効果ガス排出量削減だけでは脱炭素化が困難な分野**(鉄、化学、セメント、石油精製等)**においても有効な手段**であるため、国や企業、大学等で、研究が進められています。
- 浮島処理センターでは、2024年3月からCCUS技術導入に向けてプラントメーカーと共同研究を実施してきましたが、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構のグリーンイノベーション基金事業にて研究開発する企業と協力し、2026年3月から**膜分離法を用いてCO₂を分離回収する実証試験を開始**しました。
- 回収したCO₂については、有効利用等を行い、**川崎臨海部における炭素循環型コンビナートを目指して取組を進めます。**



担当者のポイント

ごみ焼却による排ガスから膜分離法を用いてCO₂を回収する試みは、**国内初**の取組です。膜分離法は、従来技術より**省スペース・省エネ・低コスト**な技術です。

1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(3) 庁内連携事例①（市民文化局×建設緑政局×まちづくり局×企業）



- 市民文化局では、本市の「若い人が多い」「若者による文化が盛んである」特徴を活かし、「若い世代が集いにぎわうまち」をめざした取組を進めています。
- 京急川崎駅前の若者文化創造発信拠点「カワサキ文化会館」の閉館に伴い、その機能を引き継ぐ新たな施設として、民間企業のノウハウを活かしてバスケットボールコートやダンスに利用可能なスタジオ等を整備した「カワサキ文化公園」が2025年9月にオープンしました。アーバンスポーツの新拠点として新たなまちの魅力につながっています。
- この公園は国道409号の低未利用となっていた道路予定地を、まちのにぎわいを生み出す空間へと有効活用しています。公園の一角には、水素関連事業を手掛ける企業により水素発電装置が設置されるなど、駅周辺のまちづくりとの連携を見据え水素エネルギーを活用した持続可能な社会の実現に向けた取組も行われています。



グリーンコート「カワサキ文化公園」



アーバンスポーツの無料体験イベント

担当者のポイント

アーバンスポーツの新拠点「カワサキ文化公園」で、アーバンスポーツの無料体験イベントなどを開催中です！
駅周辺のまちづくりとの相乗効果を図っていきます。

1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(4) 庁内連携事例②（教育委員会事務局×総務企画局×スポーツパートナー）



- 教育委員会事務局では、スポーツパートナーによるSDGs活動、子どもたちが「世界へ挑戦する勇気を育むとともに、自分らしい生き方を考える」ことをめざした、キャリア在り方生き方教育副教材「KAWASAKI GLOBAL CHALLENGE NOTE」(グロチャレノート)の作成をサポートし、2025年9月に市立小学校と特別支援学校、全118校の5・6年生の児童に配布しました。
- 副教材には、キャリア在り方生き方教育の3つの視点「自分をつくる」「みんな一緒に生きている」「わたしたちのまち川崎」から構想された10個のセクションがあり、世界との接点を持つ選手たちの生い立ちや経験を学ぶことにより、子どもたちが自身の夢を考えるきっかけづくりや海外の文化や考え方に触れる機会の提供となっています。

贈呈式を開催した下小田中小学校では、プロチームで活躍する選手による実演や子どもたちとの交流試合なども実施！



担当者のポイント

選手やスタッフのインタビュー動画を通して、多様な人々との関わりや自分の将来について考える機会を提供する副教材となりました。

1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(5) 庁内連携事例③（消防局×健康福祉局×民間福祉施設）



- 消防局では、高齢者等の救急搬送における**関係機関との協働に向けた取組として**、消防局救急隊員、健康福祉局専門職等職員、民間ケアマネージャーの参加する**研修を実施**しました。
- 救急現場では、傷病者本人が搬送を辞退する場合や、認知機能低下が疑われる場合等に、救急隊から地域の関係者に連絡を入れ、現況の聞き取りや救急車への同乗を求めています。
- 救急と介護福祉の現状、現場の困り事、医療と介護の視点からの地域包括ケアシステム等に関する講義を、事例を用いたグループワークで研修することで、**増加が見込まれる高齢者救急にかかわる各職種それぞれの立場による事情を共有し、スムーズな連携に向けた関係性の構築**を図りました。



研修の様子



担当者のポイント

救急現場で関係機関がどのような協力を求められているのか、お互いに認識する機会となるとともに、介護現場の課題感についても共有することができました。

1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(6) 地域連携事例①（健康福祉局×市民文化局×地域の団体・企業等）



- 健康福祉局では、「人生100年時代に備える地ケアフェア」を、**地域包括ケアシステムの推進を目的とした連絡協議会に参画する団体、企業とともに開催**しています。
- 3回目の開催となる2025年11月の開催では、「**趣味でつながる 未来にそなえる**」をテーマとして設定し、椅子ヨガやボイストレーニング、苔玉づくりなど、**新しい趣味に挑戦**したり、介護・認知症・終活などの**将来への備えについて学ぶ**バラエティに富んだ31の講座・ブースを展開しました。また、市民文化局が進める「まちのひろば」の講演会を会場内で開催しました。
- 参加することで**自分の健康や地域とのつながり、自分や家族の備え・安心へのきっかけとなるイベント**となりました。



担当者のポイント

趣味を楽しみに来た人にも、将来への備えや地域とのつながりについて知ってもらえるイベント内容に！

1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(7) 地域連携事例②（幸区役所×地域包括ケア×公園×町内会×地域の企業）



- 幸区役所では、地元町内会と地域のスーパーマーケット、社会福祉協議会が協力した取組として、2025年11月に「古市場ほほえみ公園」での移動スーパー(スーパーマーケットの移動販売)を試行実施しました。
- 高齢者の買物不便の解消や外出機会の創出、近隣住民の交流促進、公園のにぎわい創出を目的として計4回実施したところ、生鮮食品やお惣菜、日用品等約500品目の品揃えもあり大変好評で、公園を利用する子育て世代と地域との関わりづくりのきっかけにも寄与しました。
- 今後は、試行実施を進め、効果検証を行うとともに、運用ルールを明確化していく予定です。



移動スーパーの試行実施



豊富な品揃え

担当者のポイント

地域からの要望を実現可能な形に検討。地域包括ケアとして、局間連携、地域連携を進めました。本格実施に向けては、運用ルールを明確化する必要があります。

1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(8) 地域連携事例③（宮前区役所×アート・フォー・オール）



- 宮前区には、アーティストとして活動している区民が多い一方、こうした活動や作品を発表する場所が少ないことが課題になっています。
- こうした課題等を踏まえ、区民との協働で区の魅力を発信する市民提案型事業において、2025年8月から3か月間、区役所等を美術館とする取組が行われ、約100点の作品を展示したほか、アートに関連するワークショップなど、様々な取組を実施しました。
- さらに、アートを通じて様々な方がつながるまちをめざし、2026年3月にはLoGoフォームを活用し、「宮前区役所つながるオンライン美術館」を開設しました。
- このサイトでは、オンラインで作品を鑑賞するだけでなく、「お気に入り作品を店舗等に展示したい」などの貸出展示の申し込みを行うことができる仕組みを試行的に実施し、地域で活躍する人材発掘やさらなるまちの魅力向上が期待されます。



担当者のポイント

クリエイティブな活動をしている住民の多い宮前区の特徴を活かし、プロ・アマ問わず、区民が活躍する場を創出！
つながりが広がり、さらなるまちの魅力に！

1 庁内SDGsの「先進事例や身近な事例」

(9) 地域連携事例④（麻生区役所×地域包括ケア×地域の企業等）



- 2023年度に厚労省が発表した「令和2(2020)年市区町村別生命表」で、麻生区が**男女とも平均寿命が全国で最も長い**、という結果となりました。一方で、2022年度の国民健康保険の特定健診の結果では、麻生区には神奈川県や市全体と比較して、「**LDLコレステロール値の高い人の割合が多い**」、「**拡張期血圧(下の血圧)の高い人が多い**」などの傾向があることが分かりました。
- 平均寿命が長いことだけでなく、**生き生きと暮らし続けるために、区内に6か所あるスポーツ施設に着目し**、健康状態のチェックと結果に合わせた個別のアドバイスを受けることができるイベント「**あさおの保健室**」などの取組をスポーツ施設と連携して実施しています。
- 2024年度からは「健康支援」をテーマとするイベント「**あさお地域健幸フェスタ**」を連携先のひとつである**スポーツクラブが主催**して開催しています。**地域の企業や団体が協力し**、自宅でできる簡単トレーニングや健康クイズなど、子どもから高齢者まで**楽しみながら健康づくりに取り組める**内容を提供しています。



あさおの保健室



担当者のポイント

区民の健康意識の高さが長寿日本一につながったと考えていますが、若い世代から健康を維持できる習慣を身につけてもらえるよう、楽しい催しを地域の企業等と開催し、地域のつながりを深めながら健康長寿をめざします。

第5章 かわさきSDGsのゴールに向けて

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



右の画像は、国連のSDGsゴールアイコンです。
本市では、ゴール17の「パートナーシップ」から
SDGs達成に向けて取組を進めています。

1 推進体制・進行管理等

(1) かわさきSDGsの推進体制

- 総合計画（第4期実施計画）に記載のとおり、全庁的なSDGsの推進にあたっては、2019年6月に設置した「**川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進本部**（※市長を本部長とし、全局（室）区長で構成）」を中心に、各局室区における取組の協力と、関係部署相互の連携を推進します。
- また、国の取組との連動や「かわさきSDGsパートナー」「川崎市SDGsプラットフォーム」を基盤とした**多様な主体との連携強化、職員や市民、企業団体等への理解の浸透**を図り、効果的にSDGsを推進します。

(2) かわさきSDGsの進行管理

- 総合計画（第4期実施計画）に記載のとおり、本市のSDGs推進の取組については、総合計画に基づく施策を通じて行うため、**進行管理においては、総合計画における進行管理と一体的に行います。**

(3) 本『進め方』のアップデート

- SDGsは2023年から後半フェーズとなっており、2030年の取組年限に向け、SDGsを取り巻く環境は日々変化し、年々加速しています。
- こうした状況を踏まえ、職員がSDGsに関する最新動向を把握し行政施策に活かしていけるよう、**本『進め方』は年1回程度を目安にアップデートを行います。**



(別紙) 附属資料等



引用・参考文献等

- ※1 「Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標」
- ※2 「Pact for the Future, Global Digital Compact and Declaration on Future Generations (SUMMIT OF THE FUTURE OUTCOME DOCUMENTS)」 (United Nations 2024.9)
- ※3 「持続可能な開発目標 (SDGs) に関する自発的国家レビュー (VNR) 2025」 (2025.6. 外務省)
- ※4 「World Now 市民が参加するSDGsが社会課題に新たな視点を与える」 (GLOBE+ 2018.1)
- ※5 「ESG投資を巡る課題」 (財務省資料：早稲田大学経営管理研究科根本直子教授 2021.6)
- ※6 「SDGs経営ガイド」 (経済産業省 2019.5)
- ※7 「SDGs Compass (SDGsの企業行動指針 - GRI・UNGC・WBCSD)」
- ※8 「特集 SDGs (持続可能な開発目標) と科学技術イノベーションの推進」 (文部科学省 2019.9)
- ※9 「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 (2020改訂版)」 (内閣府 2020.7)
- ※10 「SDGsの実践 自治体・地域活性化編」 (村上周三 2019.4)
- ※11 「2022経済展望と持続可能な資本主義の道筋」 (経団連会長スピーチ 2021.12)
- ※12 「SDGs Communication Guide」 (株式会社電通 SDGsコミュニケーションガイド作成委員会 2018.6)

右の画像は、かわさきSDGs大賞2025受賞者の取組及び受賞者専用のロゴ

(別紙) 附属資料等

(1) 本『進め方』の作成協力

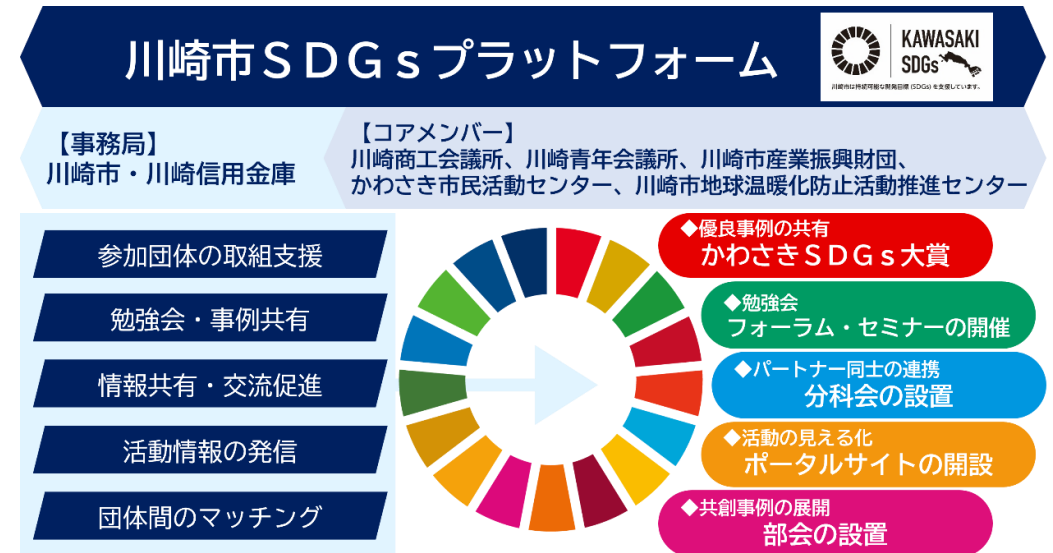
- 本『進め方』の作成にあたり、**川崎市SDGs推進アドバイザー**（北九州市立大学法学部 高木准教授）及び**川崎市SDGsプラットフォームコアメンバー**による助言・アドバイスをいただきました。

(2) 「川崎市SDGsプラットフォーム」コアメンバー

- 川崎市SDGsプラットフォームは、川崎市内でSDGs推進に取り組む事業者を支援しネットワークを構築すること等を目的として設置しており、運営に関する企画、立案や事業広報等を行うため、**コアメンバー**を組織しています。

(コアメンバー)

- ・ 川崎市（事務局）
- ・ 川崎信用金庫（事務局）
- ・ 川崎商工会議所
- ・ 一般社団法人 川崎青年会議所
- ・ 公益財団法人 川崎市産業振興財団
- ・ 公益財団法人 かわさき市民活動センター
- ・ 川崎市地球温暖化防止活動推進センター



(別紙) 附属資料等

(3) 「川崎市SDGsプラットフォーム」の取組例

ア かわさきSDGs大賞

- ・SDGsの推進に向けた具体的な取組の普及及び推進を図るため、「かわさきSDGsパートナー」の優れた取組を表彰する「**かわさきSDGs大賞**」を2022年度から実施



事前申込
受付中

かわさき
SDGs
大賞 2025

入場
無料

表彰式を開催します！

11月21日(金) 13時～15時

203・204会議室

受賞者の取組概要を紹介するリーフレットを市HPに掲載



(別紙) 附属資料等

イ 川崎市SDGsプラットフォーム「分科会」

- ・パートナー間によるSDGsの達成に向けた課題の検討や知見の共有及び取組の具体化に向けた研究などを行うことを目的に、**2022年度から「分科会」を設置。**
- ・2026年3月現在、**9分科会**（のべ13分科会）が活動し、パートナー同士が協力・連携し、お互いの強みやノウハウを活かして、**自主的に活動**している。

※団体数は発足時点

	2026年3月現在活動中の分科会
1	海の豊かさを守ろう fromかわさき（5団体）
2	次世代向けSDGsチャンネル（14団体）
3	健康経営を探求し構想し実現を目指す（4団体）
4	子どもたちへの寄付スキーム（15団体）
5	川崎発！医療のエコ活動を広めよう（4団体）
6	川崎雑紙3R促進研究会 地産地消効果の検証（4団体）
7	フォレスト・サポート・プロジェクト（6団体）
8	すべての人が文化・スポーツを楽しむ（5団体）
9	デジタルを活用した社会課題解決（5団体）

川崎市SDGsプラットフォーム『分科会』
活動計画書(第1号様式)

「海の豊かさを守ろう from かわさき」分科会

2022年度設置
管理No. 01

分科会長
(事業者・団体名)

スナイプバレー合同会社

**関連する
主なゴール**

設立目的・趣旨・概要
 海の環境問題について、ビーチクリーンアップやリバークリーンアップなどを通して、陸上から海にゴミが流れ込んでいることを理解したり、セミナーやワークショップの開催などで、今、何が起きているのかを多くの人に知ってもらうことを目的に活動します。

活動計画・活動内容
計画：海の環境を知り、海の環境に配慮した製品の紹介・開発等を行う。
活動①：イベント出展
 参加メンバーの協働で、それぞれの強みを活かしながら、SDGs関連のイベントに出展。メンバー個別でも積極的に参加する。
活動②：セミナー・ワークショップ開催
 参加メンバーの協働、もしくは個別で、海の環境保全に関するセミナー・ワークショップを開催。
活動③：ビーチクリーンアップ実施
 ビーチクリーンアップを実施し、実際の海の現状を知ってもらうとともに、意見交換などを行う。

海の環境を守るためにできることを、一緒に考えてみませんか？

 <周知・仲間づくり> イベントの出展など
 <学ぶ・体験> ビーチクリーンアップ、セミナー等

募集したいパートナー
 「美しい海を後世に」と思う方ならどなたでも

参加メンバー
 スナイプバレー合同会社【※代表】、かわさき生活クラブ生活協同組合、東京現四友の会 小杉方面、美遊JAPAN 有限会社、青空かみしばい&和物大道芸の会、株式会社高喜商店

SDGs分科会取組紹介シート

(別紙)附属資料等

ウ かわさきSDGsポータルサイト

- ・かわさきSDGsパートナーの登録・認証制度への申請等の効率的な運用や、パートナーの活動の見える化による市民理解の促進を目的に**2023年1月から運用開始**



かわさきSDGsポータルサイト

エ かわさきSDGsパートナーまつり

- ・かわさきSDGsパートナーと一緒にを行う市民イベント「かわさきSDGsパートナーまつり2025」を**2025年11月に開催（3回目）**
（主催：NECプロボノ倶楽部）



かわさきSDGsパートナーまつり（NECプロボノ倶楽部連携）

オ SDGsトレイン【2026年3月終了】

- ・東急株式会社が運行する「SDGsトレイン」に本市の取組を紹介するポスターを掲出し、SDGsの普及啓発を推進
- ・運行期間：**2020年9月から2026年3月まで**
（1年を4クールに分けて掲示内容変更）



SDGsトレイン（東急株式会社連携）

(別紙) 附属資料等

カ その他事業展開

- ・ DeNA川崎ブレイブサンダースとの共催によるSDGsフォーラムや&ONEdaysを開催し、企業の先進事例や、より実践的な取組を共有
- ・ 市政だよりや、教育だより、ポータルサイト等でSDGsの理解促進を図るとともに、川崎フロンターレ主催のSDGsランド等のイベントへの出展、横浜市SDGs認証制度”Y-SDGs” 認証事業者との事業者交流会の開催、出前講座など市民・事業者への普及促進を実施
- ・ 平間学校（平間小SDGsフェス）など、学校とパートナーとの連携によるSDGs教育、出張授業等を実施



川崎・横浜事業者交流会（横浜市連携）



SDGsフォーラム
(DeNA川崎ブレイブサンダース連携)



SDGsランド
(川崎フロンターレ連携)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



KAWASAKI
SDGs 

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

2030 川崎から未来へ



2026年3月 川崎市

